

1. これからの学校図書館

学校図書館は、利用者が一人で読書する場〈読書センター〉としての機能だけではなく、校内に各種の情報を提供する場〈学習情報センター〉として役立つなど、幅広い可能性を持っています。

利用者は、学校図書館の資料から関連機関を知ったり、そこで得た情報から学校の資料で調べたり、インターネットを含む各種メディアの中から情報を得たり、それらを学校の資料と比較したりと、さまざまな方法で学習や研究・調査をします。

これからの学校図書館は、〈利用者が速やかに情報を手に入れて、問題解決ができ、自己表現力をつけて、現代社会を生きていく力〉をつけられるように、支援していかなくてはなりません。

図書館のコンピュータ化によって、**検索機能**が強化されれば

学習者は、どこからでも手軽に図書館の資料にアクセスすることができる

学習の幅がひろがる

学習の内容が深くなる（学習の質の向上）

他者との協同学習やダイアログに役立つ

学習効果があがる

図書館**管理機能**が強化されることにより

図書館担当者は、管理運営面で省力化・迅速化・広範化が図れて

貸し出し・返却・督促処理が速くなる

利用統計処理が速くなる

蔵書点検などが能率的にできる

蔵書の合理的な配置ができる

すばやく資料を提供できる

幅広いレファレンスができる

教職員は、機能強化された図書館を利用することで

教材作成のための資料へのアクセスが速くなる

学習者の興味・関心が利用統計などからわかる

学習者の興味・関心にあった教材構成ができる

他教科との連携や合同授業に役立つ

総合学習などの教科の枠を越えた教材ができる

利用者が増え図書館が活性化されれば、更に、利用者から様々な要求が出されると思われます。また、自校図書館以外の資料検索ができるようになれば、地域の他の学校や公共図書館との交流が活発になるでしょう。

授業や行事などの教育活動に役立ち、個人の読書活動を支援すること、これらが車の両輪のようにバランスよくまわっているのが、学校図書館の理想の姿です。

利用者一人ひとりをサービスの対象として考え、はじめて〈学習センター・読書センター・情報センター〉の機能を実現することができるのではないのでしょうか。

2. 新たな図書館蔵書管理ソフトの中身について

上記の事柄を達成するためには、以下の内容が必要です。

入力システム 現行のMARCを使って統一したデータをダウンロードできること

検索システム 横断検索としてWEBによる検索ができて、学習に役立つ検索システム

貸し出し・返却システム バーコード対応であること

管理システム 蔵書点検等が合理的・省力的にできること

(例 カードなどが必要に応じて作成できる・バーコード利用で蔵書点検ができる・・・)

3. 新図書館蔵書管理ソフトへの要望

(1) ハード（機器）面等での要望

- ・ 図書館独自のパソコンを2台（カウンター用、司書室入力用）

司書室での入力作業をするPCには、10キーなどすべてのキーがついているキーボードを備えた、場所をとらないデスクトップを設置してください。（液晶ディスプレイ付きのデスクトップがよい）

カウンター用は、場所をとらない大きさのもの（できればノートPC）を設置してください。なお、複数課程校にあっては、入力用PCを各課程ごとに1台、また、課程毎分離館にあっては、カウンター用PCも課程毎1台の配置を要望します。

- ・ 図書館閲覧室にノートPCを10台と情報コンセントの増設

図書館閲覧室にある現行の5台のデスクトップは、場所をとっていて、パソコンラックが粗悪なことから（特にH13年度導入のもの）キーボードの落下などの事故が報告されています。

これを改善するために、ノートPCに変更してください。

さらに、図書館でのPCの利用が非常に多い現状から、10台に増やしてください。

一方で、現在の赤外線での接続は非常に不安定なため、LANコード接続ができるように希望します。

- ・ バーコードリーダーを2台

1台はカウンターの貸出返却業務用で、カウンターPCに（USB）接続できるようにしてください。

もう1台は、蔵書点検などに使用できることを希望します。

- ・ バーコードラベル・ラベルキーパー2万冊分

貸出返却業務を円滑にするためには、図書館の蔵書にバーコードラベルを貼って、バーコードリーダーで読み取りを行うことが必須です。蔵書の計画的な購入などに備えて各校蔵書プラス2000枚を用意してください。

また、このラベルにバーコードが正確に打ち出せるようプリンタについても配慮してください。

(2) MARCに関する要望

- ・ 現行システムのMARCが全府立高校で使用できること

現在の図書館蔵書管理ソフトは、TRCMARCを使って入力することができます。この方法で入力すれば、より早く・より正確・より詳細に府立高校の統一された共通データが構築できます。その結果、インターネットでのキーワード検索のようなことが可能になり、図書館が〈学習センター・読書センター・情報センター〉の役割を果たせます。本研究会では9校の研究指定校に、TRC（図書館流通センター）からデータを提供していただいて、入力・データ整備・検索（横断検索を含む）などの研究をしてきました。（H14.9～H16.3）

その結果、ほぼ1年間で、（いきいきプランの活用により、）1校平均約17000冊のデータ整備ができました。この指定校以外にも、TRCMARCの購入をした各高校でも、15000から20000冊のデータ構築ができています。

さらに、データ整備が進んでいる各高校のデータを府教育センターのサーバーに集めて、各高校のPCからWEB検索することにも成功しました。

しかし、TRCMARCの購入を各府立高校が負担しなければならない現状では、入力作業がはかどりません。府立高校の統一された共通データ構築のために、現行のMARCが全府立高校で使用できるように要望します。

そして、（インターネットなどを利用して）すばやくデータを入手できる方法を希望します。

(3) 遡及入力についての要望

MARCのない本などの資料のデータの統一化をはかることが必要で、この入力業務を府立高校全体にわたって、計画的に（例えば1年に数校まわって入力する）専門に行う人材を確保してください。

(4) 新図書館蔵書管理ソフトの契約についての要望

現在の図書館蔵書管理ソフトは、コンペ方式で教育委員会と第一電子（株）の共同開発として、決定されました。つい最近まで、第一電子（株）の御厚意によって共同開発がつづいていましたが、本来であれば、開発1年間ぐらいで、打ち切られるものと聞いています。

そこで、次期新図書館蔵書管理ソフトの契約は、学校情報ネットワークの更新契約と同時にさせていただきたいと思えます。（学校情報ネットワークの更新契約のなかにパッケージとして入っていること）

4. 新図書館蔵書管理ソフトへの要望の補足説明

(別紙2枚 「学校図書館の活動」「大阪府学校情報ネットワーク図書館蔵書管理システム図」)

<カウンター業務>

- ・バーコードリメンテナンスで利用者カードと資料のバーコードラベルを読み取るだけで、正確に一括処理できる。
- ・貸出・返却・予約等の処理が複数冊数同時に処理ができる。予約の取消、予約日の変更が可能。
- ・貸出延長、返却日の変更などが行える。
- ・継続貸出、予約図書も特別な処理なしに操作できる。貸出チェック機能で、予約者以外への貸出を防ぐ。
- ・複本管理により、冊数管理、書誌予約方式で貸出中のどの本が返却になっても通知される。
- ・生徒番号・利用者IDのどちらにも対応可能。

<貸出区分の設定>

- ・冊数・日数・継続回数は、生徒・教職員・学外者など利用者区分別、指定図書等の資料別に設定可能。

<利用者管理>

- ・年度更新時に面倒な生徒番号入替え作業を一括で処理することができる。
- ・前年度貸出データが新年度に自動繰越しされ、春休みの貸出も通常通り行うことができる。

<発注・受入処理>

- ・可変長に対応。各種MARCを取り込んでも途中で切れることがない。長い書名や多くの内容細目まで全てを収納可能。
- ・登録番号をベースに、ローカルデータを追加・編集する。
- ・セットものは複写機能(直前値や直前行のコピーができる)で簡単登録。
- ・複本管理ができる(登録時にISBNの自動チェック。書誌データに対しローカルデータを追加する)。
- ・ISBNのバーコードを読み取ることによって、ISBNやMARC NO、タイトル、著者、出版者によるMARC検索の結果を画面に取り込むことができる(バーコードが印刷されていないものは、数字の読みとりもできる)。
- ・タイトルなどカナ項目と対応する項目は、漢字項目の入力をすれば、自動的にカナ項目にも漢字のヨミが入力される(漢字表記の欄に貼付けをした文字でもカナに再変換される)。
- ・指定図書など配架場所のデータを一括に変更できる。

<原簿・目録印刷>

- ・書名・著者・分類目録などが印刷できる。自館にあった書式で、いろいろな種類の帳表を作成。
- ・新着案内や目録作りに活用できる。
- ・図書ラベルやバーコードラベル印刷の機能。

<検索機能システム>

- ・WWWブラウザを利用して検索。端末の機種に制限されず、いつでもどこからでも、簡単に図書の検索ができる。
- ・前方・部分、あいまい検索に対応。キーワードで検索できる。
- ・ひらがな・カタカナ・全角・半角・大文字・小文字を問わないあいまい検索が可能。
- ・貸出中の図書は色別表示などで一目瞭然。

<蔵書点検システム>

- ・蔵書点検から、不明図書一覧・除籍・廃棄図書一覧表などの管理帳表を作成。
- ・ハンディターミナルを利用して、簡単に蔵書点検が行える。
- ・配架場所・分類番号・費目等に分け、計画的な点検作業が行える。
- ・過去の点検結果を記録し、一定期間を超えた紛失図書の一括除籍ができる。
- ・DOS汎用で、旧式のノートパソコンやバーコードリーダを生かして複数のノートパソコンで実行できる。

<図書館インフォメーションシステム>

- ・作成した書誌データ、図書館からのお知らせ、書架情報や施設内のインフォメーション、図書館ニュース等をイントラネットのWebページで公開できる。

<補助作業>

- ・外部資料CSVから簡単にデータの取り込みができる。データの出入力が簡単にできる。
- ・OA化が進んでいる学校にも対応できるようにする(バーコードの種類や請求番号の与え方が自由である等)。
- ・現在入力済みの情報をそのまま活用できる。

4. その他

- ・各学校の状況・実践(研究指定校)をくみ上げる。
- ・予算措置は明確にする(学校の中に吸収されないような方策を)。
- ・誰にでも理解できるもの。日常の業務に即役立つもの。
- ・メンテナンスは各学校の学校情報ネットワーク管理者に頼らずに、専門のSEあるいはセンターで一括管理すること。